

令和４年度 碧南市病院事業報告書

1 概況

（１）総括事項

ア 業務状況

碧南市民病院は開院３４周年を迎え、この間、地域の二次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域の中核的な病院として役割を果たすべく尽力してまいりました。

長引くコロナ禍の中、ウィズコロナ、アフターコロナを意識した新たなライフスタイルが定着し、感染状況も時期により増減はありますが落ち着いた状況となっています。当院では引き続きワクチン接種の促進に努め、今年度は延べ４，０３７回の接種を行いました。引き続き、感染症対策の徹底や医療提供体制の整備に努めてまいります。

今年度の５月から老朽化が著しい入院病棟の改修工事を開始し、施設の適正化及び社会状況の変化に対応した病院機能の向上並びに入院患者の療養環境及び職員の職場環境の改善を目的として、令和５年７月末の完了を目指しているところであります。具体的には、急性期機能の充実を目的とした感染者用病床やＨＣＵ（高度治療室）の整備、入院患者の療養環境の改善を目的とした病棟の内装の更新、照明のＬＥＤ化、病床数に適した共用トイレの配置及び全トイレの洋式化等を実施するとともに、今後の病床利用率、人員配置等を考慮した病棟の編成及び病床数の見直しを行い、総病床数を３１９床から２５５床へ変更するとともに適正な看護師の再配置を行ってまいります。

また、医師の確保対策としましては、近隣医大の医局訪問を継続して行っており、今年度より消化器内科と脳神経外科の医師が１人ずつ増員となりました。この結果、年度末現在の医師数は前年度末より２人増の４７人となりました。今後も更なる診療体制の強化を図ってまいります。

経営状況につきましては、医業収益では、病棟改修に伴う入院患者受け入れの制限による入院収益の減が主な要因となり、前年度対比２２６，３８０千円余の減となりました。一方で、新型コロナウイルス感染症に関する患者数の増加に伴い診療単価は増加傾向にあり、入院患者一人当たりの診療単価は前年度対比３，５７１円増の５４，６４６円、外来患者一人当たりの診療単価は前年度対比４５２円増の１

4, 559円となりました。また、医業外収益は主に新型コロナウイルス感染症関連の補助金の交付基準が変更され補助金が減ったことにより、530, 048千円余の減となりました。

医業費用では外来患者の増により材料費や経費が増えたものの、病棟改修に伴う入院患者の減により職員の時間外勤務等の給与費が減ったため、前年度対比3, 092千円余の減となりました。

結果として、令和4年度は714, 743千円余の純損失となり、前年度対比797, 666千円余の悪化となりました。

イ 患者数

入院患者（退院含む。）は、59, 610人（1日平均163. 3人）で、前年度対比11, 906人の減、また、外来患者数（時間外含む。）は、140, 436人（1日平均578. 0人）で、前年度対比2, 499人の増となりました。

ウ 収益的収支

病院事業収益は7, 327, 486千円余、病院事業費用は8, 042, 230千円余で、当期純損失は714, 743千円余となりました。

エ 資本的収支

資本的収入は1, 619, 865千円、資本的支出は1, 304, 236千円余で、差引額315, 628千円余の収入超過となりました。

収入については、一般会計からの繰入として出資金262, 662千円、一般会計からの補助金500, 000千円、企業債841, 500千円、医師、看護師修学資金返還金として13, 800千円を受け入れました。

支出については、市民病院病棟改修工事、市民病院救急外来一般系統空調機更新工事、市民病院エントランスホール防煙垂壁改修工事等の建設費として663, 811千円余、超音波画像診断装置、X線骨密度測定装置等の機器備品を購入するための資産購入費として154, 928千円余、ほかに企業債償還金（元金）として468, 096千円余、投資として医師、看護師等修学資金貸付金17, 400千円を執行しました。

（2）経営指標に関する事項

令和4年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の減に伴う医業外収益の減により前年度対

比10.1ポイント減の91.0パーセントとなりました。また、経営の収益性を示す修正医業収支比率では、令和3年度は、患者数が再び増加してきたことや診療単価の向上に伴い73.2パーセントまで改善しましたが、病棟改修に伴う入院患者の受け入れ制限による入院患者数の減により、令和4年度は前年度対比3.1ポイント減の70.1パーセントとなりました。

一方、施設がどの程度利用されているかを示す病床利用率は、令和2年度は54.3パーセント、令和3年度は61.4パーセント、令和4年度は64.0パーセントと徐々に改善しています。今年度は病棟改修に伴う病床数の減も影響していますが、新型コロナウイルス感染症の対応として患者受け入れのための病床確保を行っていることが主な要因となっています。今後は病棟改修に伴い病床数の適正化を図ることで、更なる病床利用率の向上を目指すとともに、入院患者ひとりひとりに寄り添い、質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

	H30	R1	R2	R3	R4
経常収支比率	86.5%	87.4%	90.0%	101.1%	91.0%
修正医業収支比率	77.6%	77.5%	65.8%	73.2%	70.1%
病床利用率	72.1%	71.6%	54.3%	61.4%	64.0%

【経常収支比率＝(経常収益／経常費用)＊100】

【修正医業収支比率＝((医業収益－他会計負担金)／医業費用)＊100】

【病床利用率＝(年延入院患者数／年延病床数)＊100】

